

若者と支援者をつなぐ機関誌

# YOUTH SERVICE

若者を考える、若者と考える

vol.24

特集

若者  
X  
結婚

TOPICS 10周年の京都若者サポートステーション



## 18歳選挙権に思うこと

人づくり21世紀委員会 中京区 世話人  
植野 裕代



今年は18歳選挙権が騒がれていますが、若者たちは戸惑いを感じていると思います。それは政治に関して、何の知識も得る機会がなく、また、予備知識のないまま権利が与えられたからではないでしょうか。選挙は政治に関わる国民一人一人に与えられたチャンスであり、その重大性を子どもの時から、教育としていくものと考えます。

先日、NHKテレビ番組で外国の18歳の3人のお話のなかに、日本の若者の政治に対する無関心さに驚いていました。それは、彼らが子どもの頃から、家族の中や学校で政党や人物について、いろいろと意見を交わしながら、政治について若者として、責任を果たしているからだと感じました。

政治は、いろいろな立場の国民（特に弱者）が、義務を果たしながら、権利を求め実現が得られる大切な機関だと思っています。

今、中高大の一部ではありますが、前向きに本番さながらの選挙を授業に取り入れているとのこと。ぜひ、学校教育のなかで政治について取り上げていただきたいです。

(中京青少年活動センター育成委員会委員長)

イラスト：おおつか なな

14

「おいでよ！  
ユースかわら版

NEW東山青少年活動センターロビー」

ほか

12

TOPICS  
10周年の京都若者サポートステーション

若者政策とユースワーク 水野篤夫

### ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

8

高校生が作ったページ  
高校生の本音を探る〜私たちの居場所〜

3

特集  
若者×結婚

表紙：五貫 諭 小野田 陽子  
撮影：山本 博克

プラス思考に変える独自の教育「EMS」で

# 自分を好きになる、 未来が変わる！

転入編入は随時ご相談を  
受け付けております。  
お気軽にお電話下さい。



通信制高校(広域通信・単位制)

# 第一学院高等学校

平成24年4月「第一高等学院グループ」の「ウィザス高等学校」「ウィザス ナビ高等学校」から校名を変更しました。

自分に合ったスクールライフ

通学型

- 毎日通って高校生活を満喫
- 週2〜3日マイペースに登校

通信型 (Mobile HighSchool)

- 時間や場所を選ばず学ぶ

仲間ができる！笑顔が増える！



心強い仲間たち  
(ピアサポーター)



様々なサークル・  
イベント

自分に合った学習

- 中学校の復習から大学受験対策まで
- +
- 進路対策も万全(進学・就職)

京都市営地下鉄「五条」駅 ①番出口 徒歩2分(京都駅より1駅)  
〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F

京都キャンパス TEL **075-371-3007**

全国50キャンパス(平成27年4月時点)

www.daichigakuin.ed.jp

第一学院高校

検索

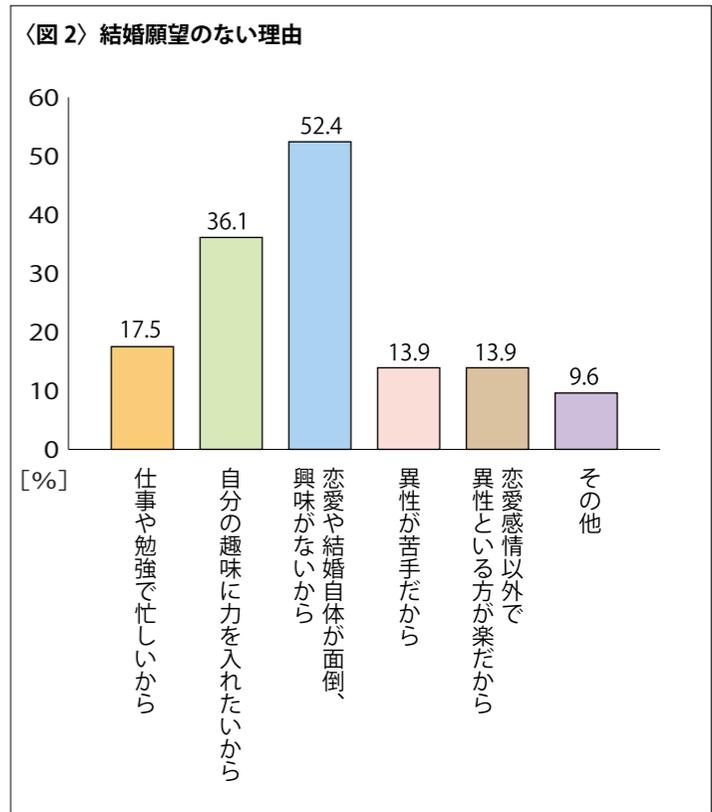
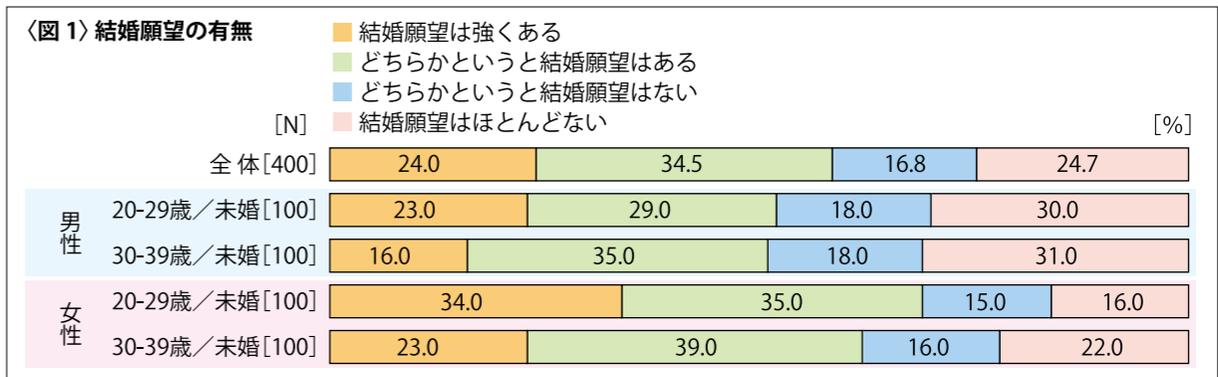




# 若者の結婚離れ？

お見合いではなく恋愛から結婚する人の割合が逆転した1960年代～70年代前半には、9割の男女が35歳までに結婚してしました。その後、1990年ごろには「結婚することが当たり前だ」と考える人と、「必ずしも結婚をする必要はない」と考える人の割合が逆転し、平成22年には「結婚は個人の自由だ」という考え方に賛成する人は5割近くにまで増加しました。現在は恋愛による結婚が主流になっていますが、35歳までに結婚する割合は男性5割、女性6割半と減少傾向です。

今の若者は結婚に対してどのような意識を持っているのでしょうか。20歳～39歳の男女を対象にした「20～30代男女の結婚に関する調査」（株式会社クロスマーケティング）で、「結婚願望がない」と回答した男女は41・5%に上ります。その理由は「恋愛や結婚自体が面倒、興味がないから」が52・4%と最も多く、次いで「自分の趣味に力を入れたいから」が36・1%、「仕事や勉強で忙しいから」が17・5%と、様々な価値観が受け入れられるようになってきたことで、結婚は人生の一部分に過ぎないものと考えられる若者が多いことが分かります。



「女性が家庭に入り、専業主婦として家を守る」というカタチも、90年代以降女性の社会進出、共働きの増加とともに変わってきています。一時期「専業主夫」や「イクメン」といった言葉が注目されましたが、これら男女の働き方の変化に制度や職場の理解が追い付いていない現状もあります。一方で、離婚は増加傾向にあります。人口比の離婚率も1980年代に比べ、2000年代は倍増

しており、さらにその年齢に着目すると、10代女性の子どもを抱えての離婚はここ数年で急増しています。

多様な結婚の価値観が提唱される一方、制度や働き方などの社会の変化が、若者の結婚への逆風になっているようです。そんななか、若者はどのように「結婚」を捉えているのか——「本音」を若者に聞いてみました。

## 結婚本音トーク Q「若者の結婚離れて最近よく聞くけど、実際どう思う？」

中京：大学1回生4名  
ガク、ユウ（男性） ナナミ、マキ（女性）

**ナナミ** 私は全然（そうは思わなくて）結婚したい！

**ガク** 一回結婚離れが進んだけど、僕らの世代になってまた元に戻ってきている気がする。周りで男女問わず結婚したいってよく聞くし。

**ナナミ** 早く結婚したいけど、現実的には就職して2、3年で結婚するのはもったいない気がする。

**ユウ** それは女の子目線やな。早い、遅いの基準って？

**ナナミ** 26歳くらいが普通かな。それより前は早くてその後は遅い。

**マキ** 男の人は30過ぎてでもいいけど、女の適齢期は早いし短い。

**ガク** 女の人って「一生恋したい」願望ない？あと結婚がゴールみたいな。男は違う。

**ユウ** 僕は専業主夫になりたい。僕の父親も休みの日には（）飯作ったり家事してたし、男が家のことをするのは普通だと思う。



北：同志社大学の劇団メンバー4人  
A：大学1回生（女性） B：大学5回生（男性）  
C：大学4回生（女性） D：大学3回生（男性）

**A** 結婚は一度はしてみたいと思う。浮気とかされても、結婚してないと一緒にいるという約束がされていない感じがするかも。

**D** してみたいとは思いますが、あんまりリアリティはないですね。今、大学生なので、結婚以前に卒業、就職っていうのも待ってるし現実味にかける。先の話かな。

**C** 私は楽しみたいから結婚したい。自分だけの収入じゃ厳しいし、家計を助けあう意味でも結婚したいし働きたいし、楽しい。

**D** 昔の結婚はもっと「結婚＝女の人が養ってもらう」形が基本スタイルだし、そういう一般常識、価値観があるからたぶん考えやすかったと思う。今は生涯設計がバラバラだし、合う人を見つけるのに時間がかかる印象。自分は正直、専業主夫に興味があるけど、男性にとって「離婚が死活問題」ということを聞いて考え直した。女性の社会復帰への働きかけはあるけど、男性はまだまだ差別的だと思いますね。

**C** そうなんだ。私の考えとは合



若者に聞く

あなたにとって結婚とは？



# 「結婚」のカタチ

立命館大学 産業社会学部准教授 齋藤真緒

なぜ今「結婚」について考えるのか。そもそも結婚を、どういう問いとして考えたらいいのだろうか。

ひとつデータを見てみよう。「生涯未婚率（50歳時点での未婚率）」という統計指標がある。2015年では、男性が20・1%、女性が10・6%であるが、20年後の2035年に、男性は29・0%にまで、女性は19・2%まで上昇すると予測されている。簡単にいえば、多くの人にとって、ますます「結婚」することが難しくなる。でもちょっと、ここで立ち止まり、今の日本の現状を相対化して考えてみたい。「結婚＝幸せ」という法則は果たしてどれくらい「正しい」のだろうか？

高度経済成長期の日本は「皆婚社会」（生涯未婚率は2%程度）であった。その頃と比較すると、確かに今日は結婚することが難しくなったといえるかもしれない。しかし、江戸時代には、独身率も離婚率も高かった。つまり、長い

目で見れば、結婚しない人が多いことは特殊なことではない。

「皆婚」時代の夫婦は、サラリーマンの夫と専業主婦との組み合わせが多かった。現在は、共働き世帯のほうが多数派だ。世界的にはまだまだ遅れているとはいえ、女性も男性と対等に働くことを目指すようになり、家事や育児をどう分担するか、多くの夫婦が直面している。結婚に際して、自分の名字を変えたくないと考えた女性も増え始め、「夫婦別姓」を希望したり、あえて事実婚を選ぶカップルもある。離婚する夫婦も増えている。現在、結婚するカップルの25%は再婚である。再婚によって血のつながらない兄弟姉妹が一緒に暮らす家族（ステップ・ファミリー／子連れ再婚家族）も増えている。急速な高齢化によって、遠く離れて暮らす親の介護のために、夫婦が別居するケースもある。

また、今の日本の結婚制度では、男性と女性との結婚しか認められておらず、そもそも同性愛者の人

たちは結婚できない。東京都渋谷区が昨年「同性パートナーシップ制度」を導入したが、この動きがどこまで広がるかは未知数だ。

ヨーロッパでは、結婚せず子どもをもつカップルが多数派で、非嫡出子（結婚制度外で生まれた子ども、婚外子ともいう）が50%を超えている国もある。ちなみにヨーロッパでは、同性愛者の結婚（同性婚）を認めている国も多い。わたしたちは、つい「なぜ結婚しない（できない）のか」という問いを立ててしまいがちだが、ヨーロッパでは、「なぜ（あえて）結婚するのか」という問いのほうが重要なのである。

ありきたりではあるが、結婚はゴールではない。妻が夫に従う時代でもない。大小いろんな問題を、いちいち夫婦の間で解決していかなければならない。万能な「答え」など存在しない。大事なものは、結婚するかしないかという二分法ではなく、どのようなつながり、ど



■プロフィール  
 齋藤 真緒  
 (立命館大学産業社会学部准教授)  
 立命館大学社会学研究科博士課程修了  
 2005年 立命館大学産業社会学部助教授(准教授)  
 専門は家族社会学。思春期保健相談士。共著『ジェンダーで学ぶ社会学(全訂新版)』(世界思想社)など。

のような関係性を築いていけるかである。「結婚」という「カタチ」にふりまわされることなく、多様な人と人のつながり方に触れることで、しなやかな感性を養いたい。



# 高校生の本音を探る

私たちが編集しました!

杉村 志帆 (高校3年)  
寺園 日向 (高校3年)

## 高校生座談会 「私たちの居場所」 〜家族や友だちに全部言えるわけじゃない〜

高校生は「居場所」をどんなイメージで捉えているのでしょうか？ また、自分の居場所はどこにあると感じているのでしょうか？ 今回、居場所をテーマに高校生4人で話し合ってみました。

**冬香** (以下:冬): 居場所ってどんなイメージ？ 私が思う居場所は、安心できる、素の自分が出せる、本音を話せる場所という感じかな。

**春菜** (以下:春): 自分の存在を認めてもらっているみたい。

**夏末** (以下:夏): 落ち着く、とかも？

**春**: 全部出せるのは家かもしれないけれど、家で言えないこともあるしなあ……

**秋穂** (以下:秋): 家で言えないことはどこで出す？

**春**: 私は自分の中で解消してる。夏末ちゃんは？

**夏**: 私も同じかな。軽い感じのことやったり言っけど、あんまり重たいことは言えへんな。

**秋**: 同い年やから言いにくいっていつこはな？

**夏**: あるかも。逆に年上の人のほうが言いやすいこともあるかも。

**冬**: 私もみんなと同じで家族とか友だちに全部言えるわけじゃないし……。唯一言えるところっていったらネット？ (笑) Twitterでもフォロワーないアカウントを作って、そこを独り言吐き出す場にしてる。自分

**秋**: めっちゃ病んでた時に「Lineday」っていう、ネットで全く知らんと自分のアバター作って話すアプリにはまってた。何でも言えるから。一対一のトークルームみたいなので愚痴言ったこともある。

**冬**: 私的に、普段学校とかで皆と楽しそうにしても、ほんまに困った時に頼れるような居場所がない人って

意外と多いんじゃないかなと思ってる。

**春**: 居場所ほしいって思う根本は悩みとかが大きいつて思うから、自分の解消方法を持つのが大事やと思う。これしたらすっきりできる、みたいな。私の場合走るとか好きやから、気持ちよく走れたら結構忘れる。

**夏**: 自分が夢中になれることでストレス発散するとかかな。

**春**: 暇な時間がある程、深く考えてしまっし、忙しいほうが充実して考えなくて済むな。

**冬**: 意外と身近な所に居場所はあるかもって思う。学校とか家以外にも、行きつけのカフェとかネットとか。苦しくなった時こそ周りをよく見てみてほしい！

**秋**: 私は、新しいことをして新しい人に出会うことかな。いろんなことをした

ら自分と同じ感性の人と出会えるかもしれへんし、新しい経験って大事やと思う。

この話し合いでは、全員が身近な人に自分の悩みや相談を打ち明けにくいと感じていました。しかしそれぞれが、自分の好きなことをして発散する、愚痴を文字にして吐き出す、日常で繋がっていない人に話を聞いてもらう、など様々な方法で自分の「居場所」づくりをしていました。私たち4人に4人4様の居場所があったように、一人ひとりに合った居場所があるはず



## 高校生の自撮り文化の実態について大調査!!!

近年、若者の間で携帯を使って自分で自分の写真を撮るといふ自撮り文化が浸透してきています。写真は従来、人に撮ってもらうのが主流だったはずなのに、どうして自撮りをするようになったのでしょうか？ その謎を解くにあたって、高校生50人に自撮りに関するアンケートをとってみました。

①の質問に対し、高校生の回答は「特に理由はない」が多数でした。おそらく、SNSが普及し周りの人が自撮り写真を載せているのを見て、自分も流行に追いつこうと始めたものが習慣になり日常化しているのだと思います。自撮りの主な目的を聞くと、84%もの人が「思い出づくり」と答

えました。この結果についてアンケートに答えてくれたTさんから、毎日のように友達と出かけて撮った自撮り写真がSNSにアップされているのに、「SNSに投稿するため」が10%と少ないのはおかしい、という意見が挙がりました。

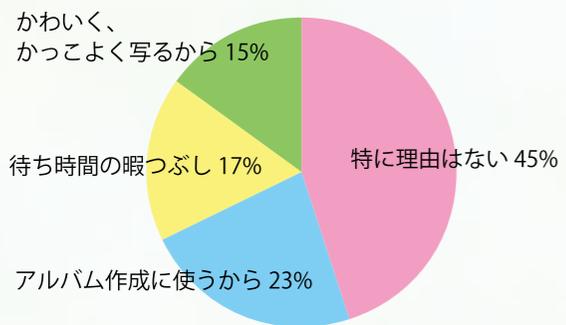
①の質問で「特に理由はない」の次に多かった回答

が「アルバム作成」、②の質問では「思い出づくり」が多数でした。これらの結果から、高校生は「自撮り写真を撮る」ことを自らの体験を形として残すためのツールとして利用しているのかなと考えました。実際、携帯のアプリを使ってより

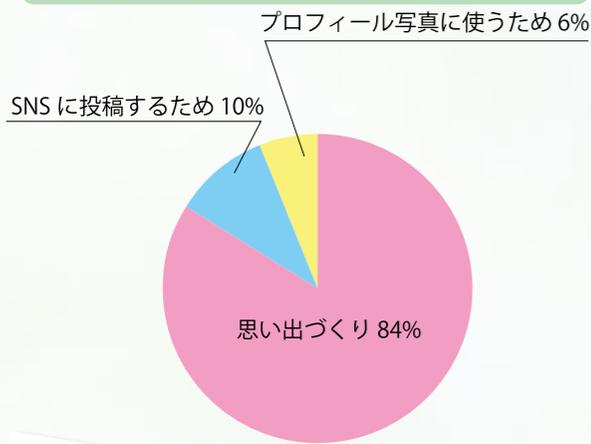
かわいく、おもしろく見せるためのフィルター加工をして、友達らにたくさん自撮り写真を使ったアルバムや動画をつくるのが流行しています。ただ写真を撮るだけでなく、それをうまく活用する高校生の発想はともおもしろいです。今後



① 普段、どうして自撮り写真を撮っているのですか？ (友達と携帯内蔵のインカムで撮るのも含める)



② 何のために (使い道・目的) 自撮り写真を撮りますか？



# 若者政策とユースワーカー

## 今、なぜ若者政策が必要なのか

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長 水野篤夫

2015年2月にNPO法人ビッグ・イシュー基金(※1)が発行した『若者政策提案書』で、提案まとめの委員会の座長を務められた宮本みち子さん(放送大学教授)は、「この社会の持続のためには若者を育てることは必須の事業である。だから、若者支援は一時的な流行で終わってはならないのだが、現実には危うい」と指摘されています。そして、「今、必要なことは、大人の世界に踏み出し生活基盤を築き始める時期の若者を守り育て、彼ら彼女らの自立支援を社会理念として打ち立てることである」と続けています。

### 1. 子ども・若者を対象とした施策・活動

「若者」といういい方は、とても幅広いのですが、小学生くらいまでを意味する「子ども」期の後に続く時代、そして成人となる手前までの人を指すものです。中学生以降の若者は大きな心身の変化に直面して「揺らぐ」時期を迎えます。その

「二ト」と言われる)若者が急増している!」として、就労支援のさまざまな施策が立案・実施されました。2010年代になって、学校でのいじめによる中学生の自殺が相次ぐと、学校や教育委員会制度の変更とともに、いじめ対策が進められます。そして、最近でいえば、「子どもの貧困」ということが社会的課題として注目され、連日のように報道されるようになったことから、国もようやく対策に動き、税金が投じられるようになってきました。ここで挙げたような社会問題の指摘と、その解決を目指した施策や活動には、当然とても大きな意味があるのですが、一方、見えやすい課題の直接的な解決だけが注目されていないか、一過性の対策になっていないかとの疑問も湧いてきます。

### 3. 若者を巡る問題と政策的な対応

こうした事実が見えてきた時に、大人社会としてどのような対応が必要になるでしょう。2000年代初めに、「働いていないし、学校にも行っていない、職業訓練を受けている訳でもない



ことを反映して、例えば、少年犯罪でいえば検挙された少年(20歳まで)の3割を中学生が占めているし、学生の暴力行為は小学生の3倍に、不登校も俄然多くなっています(※2)。これだけを取っても、中学生以降の若者に関わることの難しさと重要さが見えてきます。ところが行政施策において、子どもから大人への移行の時期に関わる取り組みの多くは、小学生年代までの子どもとその親を対象としています。また、民間団体の活動も同様のことがいえ、「青少年」を対象とする文化やスポーツ活動、野外活動なども、中学生以降を対象としたものはとても少なくなります。教育産業を別とすれば、子ども期を過ぎた、中学生以降を対象とした社会サービスの資源は急になくなるのです。

### 2. ユースワーカー

さまざまな課題に向き合う若者の支援現場では、20代や30代になっ

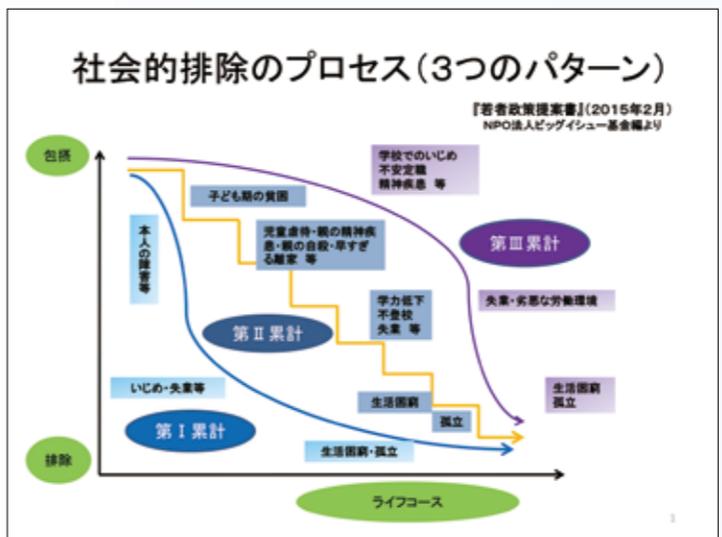
て苦しんでいる若者の多くが、小さい時の問題や課題が、そのまま見過ごされたり、持ち越されたりした状態で支援の窓口に行っているという状態です。例えば、発達障害や軽度の知的な遅れがありながら、小中と何とかやってきたのが、高校に進学してから、周りとなじめなかったり、いじめの被害に遭ったりなどして、学校に行けなくなる若者がいます。そのような場合でも、元々の背景にあった偏りや遅れが見過ごされて、「成績不振」とか「人間関係の不調」という理由づけで退学や転校に至り、そのままひきこもってしまうのです。さらに、高校までは成績も良く「問題」も起こさなかった若者が、大学に入ったとたんに関わらなくなっ

### 4. あらためて、なぜ若者政策が必要なのか

先に挙げた『若者政策提案書』では大きく分けて4つのことを指摘しています。生き抜くための力をつける教育のあり方、若者と社会をつなぐ仕組みや社会参加のあり方、住む・食べるといった生活基盤の確立、そして出口として働く場を豊かに、多様にするということです。

て苦しんでいる若者の多くが、小さい時の問題や課題が、そのまま見過ごされたり、持ち越されたりした状態で支援の窓口に行っているという状態です。例えば、発達障害や軽度の知的な遅れがありながら、小中と何とかやってきたのが、高校に進学してから、周りとなじめなかったり、いじめの被害に遭ったりなどして、学校に行けなくなる若者がいます。そのような場合でも、元々の背景にあった偏りや遅れが見過ごされて、「成績不振」とか「人間関係の不調」という理由づけで退学や転校に至り、そのままひきこもってしまうのです。さらに、高校までは成績も良く「問題」も起こさなかった若者が、大学に入ったとたんに関わらなくなっ

て苦しんでいる若者の多くが、小さい時の問題や課題が、そのまま見過ごされたり、持ち越されたりした状態で支援の窓口に行っているという状態です。例えば、発達障害や軽度の知的な遅れがありながら、小中と何とかやってきたのが、高校に進学してから、周りとなじめなかったり、いじめの被害に遭ったりなどして、学校に行けなくなる若者がいます。そのような場合でも、元々の背景にあった偏りや遅れが見過ごされて、「成績不振」とか「人間関係の不調」という理由づけで退学や転校に至り、そのままひきこもってしまうのです。さらに、高校までは成績も良く「問題」も起こさなかった若者が、大学に入ったとたんに関わらなくなっ



この中には、学校教育が担うべき役割や、福祉施策による解消が期待されること、労働行政や就労支援に関わる市民団体などによって担われるべきことも含まれています。ユースワーカーが担える部分もたくさんあると思います。特に、若者が社会とのつながりを失わないような支えや、社会参加の機会を提供することは、正にユースワーカーの役割だと考えられます。と同時に、こうした各施策がバラバラに展開されても効果的では無いので、それらの間をつないで、隙間が無い状態を作っていく必要があります。若者の「必要」からスタートするユースワーカーやその担い手の人たちが、若者の立場から隙間の無い社会づくりに果たす役割は大きいと考えます。

しかし、こうした若者と関わる活動を担っている団体(NPO等の形が多い)の多くは、安定した資金を得ることが出来ず、助成金や行政の補助金、委託費、寄付金などを1年毎に確保しつつ、課題に向かっているのが実態です。そのためにも、より分かり易い課題に取り組むことが求められ、短期間で成果の出にくい活動や、簡単に参加者を集めにくい活動には力を注ぎにくい流れになっています。そこで必要なのは、民間の多様な活動に基盤を提供する行政施策です。それも、目先の課題解決のみ

まい、授業に出てこないとか、大学の相談窓口に来談するといったケースも数多くありますし、働き出してから「些細なこと」で動けなくなってしまうこともあります。そうした若者の背景を聞くと、「小さい時から周囲から浮いていた」「学校でいじめられていた」「家庭がバラバラだった」といった過去が語られます。

内閣府が、さまざまな問題を抱えた若者の幼少期から現在までのプロセスを分析した調査(※3)で明らかになったのが、図に表された「社会的排除のプロセス」

を目指すのではなく、中長期のプランを見据えた「若者の成長を保障する政策(若者政策)」です。それにより、民間の活動に根拠が与えられ、資金を投じることへの社会的なコンセンサスも得られやすくなります。そして、先に紹介したように、若者を困難な生き方に追いやる複合的な課題に対応した、領域横断的な政策の「パッケージ」が立案され、包括的で継続的な取り組みが行われれば、個別の課題への取り組みと若者をつなぎ、支援の担い手同士をつないでいくことが出来るようになります。そうして初めて、若者が市民社会の一員として役割を果たしていくこと(それが大人になるということ)を保障する社会づくりにつながるのです。

冒頭に挙げた、宮本みち子さんの言葉、「若者の自立支援を社会理念に」するために、今こそ若者政策が必要なのです。

※1 認定NPO法人ビッグ・イシュー基金のウェブサイトでダウンロード出来ます。ぜひ読んでみてください。  
<http://www.bigissue.or.jp/>

※2 文科省の児童の問題行動に関する統計などで確かめられますが、不登校の生徒は、中学生が小学生の約7倍の割合になっています。

※3 「社会的排除にいたるプロセス」若年ケース・スタディから見る排除の過程」(H24.9月 内閣府社会的排除リスク調査チームによる)



# ユースがゆら版

## 「おいでよ！NEW東山青少年活動センターロビー」



自由に本をザッピングできる図書館のようであり、グループで寝転がれる友達の部屋のように、コーヒ一片手に充電しながらパソコンを使えるノマドワーカー御用達のカフェのような。それが、生まれ変わった東山青少年活動センターのロビーです。

センター利用者の声を集めて、1月からロビーを大改造。また、運営協力会会長である大志万耕次さんの所属されている三洋化成工業株式会社様より、ストレス無く相席のできる大きな木の机やダンス用の鏡をご寄付いただきました。より広いニーズに応えられる空間へと生まれ変わったセンターへ、みなさんぜひお越しください。

## 「シティズンシップ教育事業：若者の政治参加を考える」

2月7日(日)の京都市長選挙にあわせて、7つの青少年活動センターで、利用する若者たちのリアルな言葉や感覚を聞く参加型のプログラムと、政治への関心を高めてもらおう啓発活動を実施しました。

「自分の声を投票を通して聞いていただけるということとてもワクワクしています」「投票自体はすぐ終わったので呆気なかった」「政治に無関心にはなれても無関係にはなれないはず」「候補者同士の違いをもっと明確にしてほしい」「予定を割いてまでは参加しようと思わなかったため行かなかった」「電子投票の実現を」「自分たちの身近な問題に触れられない」など、政治を考える、また若者のリアルな政治観を交換するきっかけとなりました。

若者の投票率の低さや政治離れが指摘される中、2016年8月には18歳選挙権が実施されます。言葉を寄せてくれた200名以上の若者の声も参考に、京都市ユースサービス協会では今後もシティズンシップ教育事業を展開していきます。

## 「チョコレート週間(ちょこシュー)で恋愛を考える?！」

バレンタイン前後2月11日(木)～14日(日)に南青少年活動センターでは、チョコレート作りの応援や恋愛を語り合う企画「ちょこシュー」を行いました。レンアイカフェでは恋愛の先生あかたちかさんと語り合い、「好きな人との距離感」や「将来育児休暇が取れるの?」など話題はつきませんでした。

この企画は、子どもの未来支援委員会の助成によりHIV/AIDS、性感染症の予防啓発の一環で取組まれたものです。「自分の気持ちをパートナーに伝えることが、お互いの健康を守ることにつながる」とのメッセージを大切にしています。その他にもパネル展やピアサポーター講座など7つの青少年活動センターで協力して実施しました。今後も取り組みを続けていきますので、お楽しみに。



## 「10代アンケート実施！」

中京青少年活動センターでは、新たな10代の場づくりを考えるためのアンケートをいろいろな層の10代を対象に実施し、116名から複数回答をいただきました。1ヶ月のお小遣いは「0円」が一番多かったり、情報源はテレビよりもTwitterとネットの合計数の方が上回っていたりといった結果が出ました。分析の中で、「相談する相手はいるけど、ホッとはあまり話していない?」とか、「SNS疲れがあるのでは?」など特徴的な点が見えてきました。このアンケート結果を切り口に、10代と話をしながら、新たな事業を練っていきます。

## Q5、どこで情報を得ることが多い?



## 「子ども・若者支援専門職を構想する」シンポジウム

京都市ユースサービス協会が参加している、「子ども・若者支援専門職養成に関する総合的研究」の公開シンポジウムが2月13日(土)・14日(日)奈良で開催され、家庭・学校とならぶ「第三の領域」として子ども・若者支援の問題提起がされました。その中で、平成26年度(2014年度)から、さっぽろ青少年女性活動協会・よこはまユースとともに3団体で取り組んできた調査について、その領域を担う専門性及び専門的能力について報告をしました。



## ご寄付いただきました

いただいたご寄付については、当協会の取り組みに活用させていただきます。

また、寄付だけでなく、当協会の事業や施設運営にも日ごろから大きくご協力をいただいております。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

## 【平成27年12月～28年3月まで】

三洋化成工業株式会社 様/京都新聞洛南販売所 松井憲昭 様/江田 努・薫 様/Sリーグ運営委員会 様/匿名希望 様/ライブキッズイン新風館会場募金  
平成27年度合計額 621,868円

## 7つの青少年活動センター

### 東山青少年活動センター

住 所：〒605-0862 京都市東山区  
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階  
TEL：075-541-0619 FAX：075-541-0628

### 南青少年活動センター

住 所：〒601-8441  
京都市南区西九条南田町72  
TEL：075-671-0356 FAX：075-671-0360

### 北青少年活動センター

住 所：〒603-8165 京都市北区紫野  
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階  
TEL：075-451-6700 FAX：075-451-6702

### 山科青少年活動センター

住 所：〒607-8086  
京都市山科区竹鼻四丁野町42  
TEL：075-593-4911 FAX：075-593-4916

### 伏見青少年活動センター

住 所：〒612-8062 京都市伏見区  
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階  
TEL：075-611-4910 FAX：075-604-4910

### 中京青少年活動センター

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通  
六角下ル御射山町262  
TEL：075-231-0640 FAX：075-231-1231

### 下京青少年活動センター

住 所：〒600-8202  
京都市下京区川端町13  
TEL：075-353-7750 FAX：075-353-7740

開館時間 平日：午前10時～午後9時  
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始  
(12/29～1/3)

発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262 京都市中京青少年活動センター内

tel：075-213-3681 fax：075-231-1231 E-mail：office@ys-kyoto.org

HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：自然堂株式会社



# Catch Your Dream

## 夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

### 選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
  - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
  - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
  - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

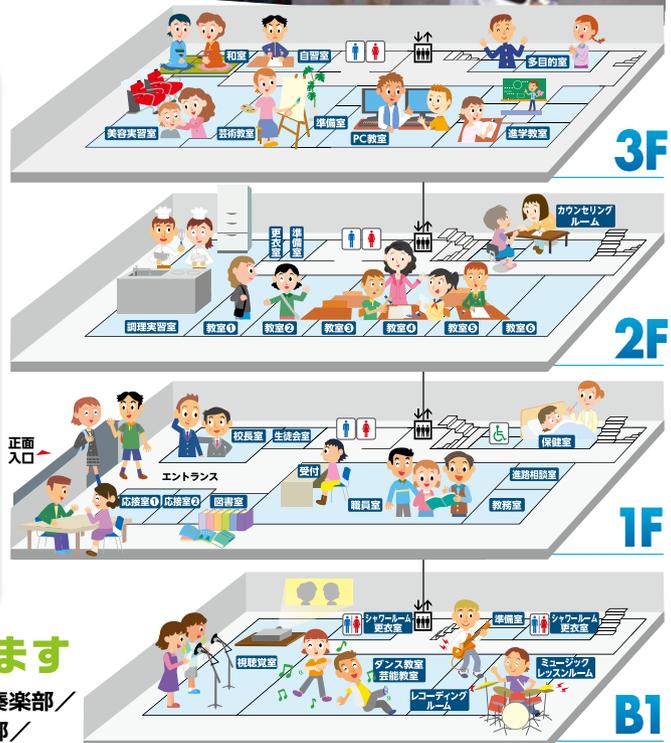


### 選べる16の専門コース

Special×Course

- 進学
- 調理・製菓
- 声優
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 動物
- スポーツ
- 外国語
- 心理・教育
- ダンス
- 美容
- ミュージック
- 芸術
- 芸能
- ファッション
- 保育

※希望者のみ選択できます。 ※専門コースは毎年変更できます。  
 ※卒業単位に20単位まで認定できます。



### 盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部 / 料理部 / 写真部 / ASG部 / 演劇部 / 茶道部 / 吹奏楽部 / 軽音部 / 声劇部 / 手芸部 / 健康増進部 / Duel Masters部 / 天文部 / テニス部 / 卓球部 / バスケットボール部 / フットサル部 / 総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

平成25年4月新校舎完成  
 平成27年4月京都府認可

私たちは青少年育成を応援しています!

通信制・単位制・普通科



## 京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番  
 TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

